

亀山市立川崎小学校校舎改築工事設計業務委託
基本設計報告書
【概要版】

平成27年 3月
株式会社 東畑建築事務所

■学校づくりのコンセプト

基本計画で掲げられたテーマ「**地域の中で育つ川崎っ子、地域が育てる川崎っ子**」は、様々な活動を通して育まれると考えています。

学校や地域の活動は、ただ広いグラウンドや屋内運動場だけではなく、さらに「**様々な機能を内包した交流空間**」が必要と考えています。それは、子どもたちや地域が活動するよりどころであり、様々なつながりの輪が広がる「**ひろば**」のような、なくてはならない場所のことです。

新しい川崎小学校づくりでは、子どもたちの学びや育ちに加え、人と人、学校と地域をつなぐことのできる「**ひろばのある学校**」をコンセプトに掲げます。

これからの学校には、様々な社会的背景から、「**学校と地域と一緒に子どもを育てる環境づくり**」や「**地域の施設としての役割**」が求められています。学校と地域は、より一層の結びつきが必要とされ「**地域と共に学校をつくる**」というプロセスが重要度を増してきています。

今回の学校改築では「きもちづくり」から「かたちづくり」、「しくみづくり」から「うごきづくり」までを創造しながら「**対話による学校づくり**」を進めます。

■学校づくりのテーマ※と学校整備のキーワード

- ・ 児童がいきいき、のびのびと学び生活する学校 ----- 可変性のある空間・心地よい居場所
- ・ 地域活動の場となる学校 ----- 地域が学校を支えるしくみづくり
- ・ 誰もが利用しやすい学校 ----- アプローチ動線の改善と使いやすいゾーニング
- ・ 防災機能が強化された学校 ----- 日常機能と防災機能の融合
- ・ ライフサイクルコストを考慮した学校 ----- パッシブデザインによる持続性
- ・ 敷地・校舎を有効利用した学校 ----- あるものを活かし新しい価値を生む
- ・ 景観・周辺環境に配慮した学校 ----- 能褒野に馴染む伸びやかな形態

※基本計画書より抜粋

■配置計画のコンセプト

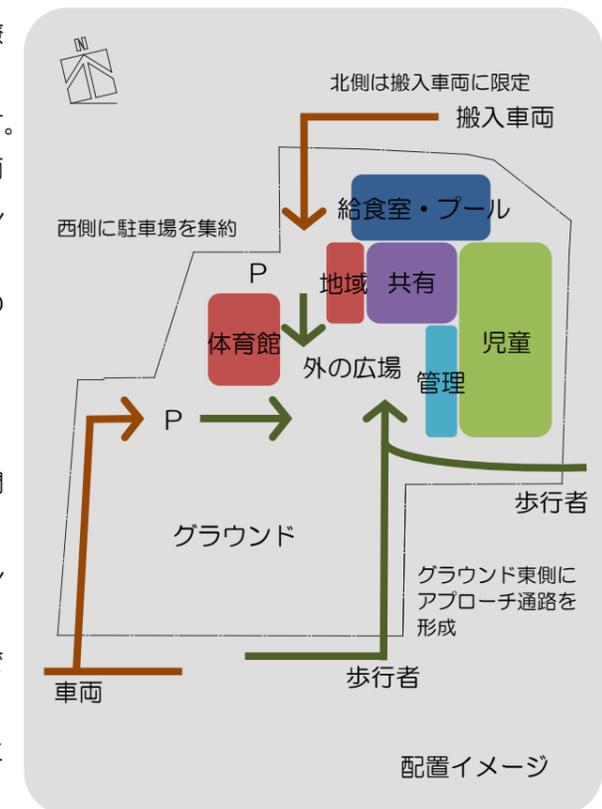
敷地を最大限に活用した「**伸びやかな学校づくり**」

○動線計画

- ・ 現在の川崎小学校は増築の繰り返しにより、入口が不明瞭で歩車動線も錯綜した状態です。問題を解決するために、門扉の位置、児童のアプローチ動線や車両動線を改めます。
- ・ 児童をはじめとする歩行者は東側と南東側の2箇所、車両は南西側と北側の2箇所に限定し、歩行者と車両を分離した安全性と利便性の高い動線計画とします。
- ・ 登校した児童や車で訪れた来校者など、全ての人は「外の広場」に導かれる動線計画です。

○配置計画

- ・ 拡張用地 3,500 m²を取り込み新旧の敷地を一体的に展開することで、2階建ての伸びやかな校舎配置を実現します。
- ・ 静かで落ち着いた東側に児童ゾーン、屋内運動場に隣接した西側に地域ゾーン、中央に共有ゾーンを配置します。
- ・ 外の広場に面して、地域・管理ゾーンを配置することで face to face により児童を見守る関係をつくります。
- ・ プールは給食室屋上に設置することで敷地をより有効に活用することやプライバシーなどに配慮します。



■かたちづくりのコンセプト

能褒野の長閑な風景と呼応する「**ヒューマンデザイン**」

○かたちづくり

- ・ 外の広場を囲むように配置された建物、屋根のある広場の大きなゲート、交流を育む縁側空間など、機能の集合により「**学校の顔**」をかたちづくります。
- ・ 古きよき日本家屋の機能性を取り入れた「**心地良さ**」のある空間を目指します。校舎の分節配置、勾配屋根、軒のある形態、内外の連続性、縁側など、五感に響く「**人間味あふれる施設**」とします。
- ・ 内外装には木材や自然素材を使用し、やわらかな空間を創出します。外部の木材使用は、雨掛りとならない軒天や壁を検討し、軒のあるデザインと合わせてメンテナンスフリーを目指します。
- ・ 色彩計画では、地域性を物語る日本の伝統色やアースカラーを用い「**川崎らしさ**」をつくります。

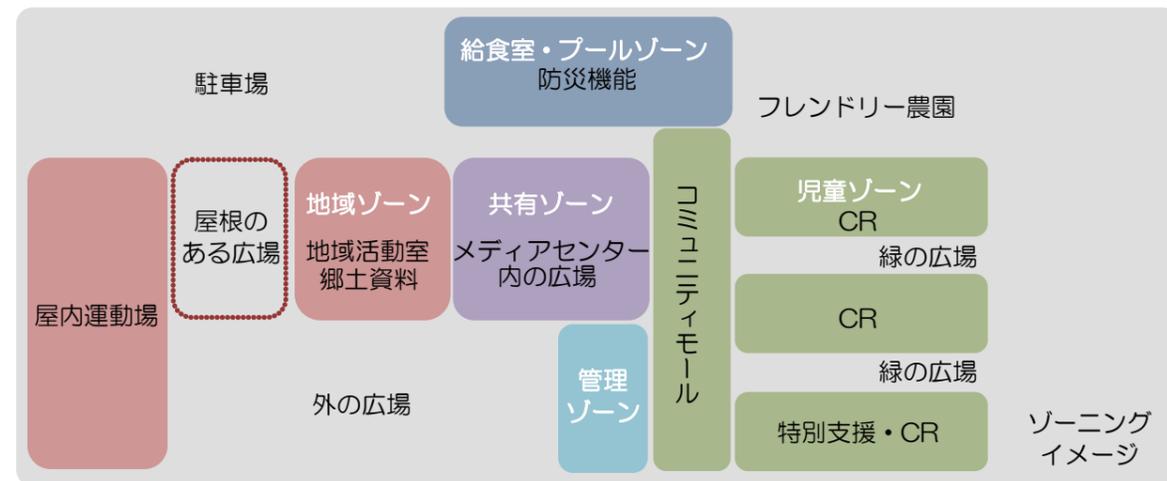
■平面計画のコンセプト

「学び」「育ち」「活動」「交流のかたち」に応じて可変する空間

■ゾーニング計画

- ・ 児童ゾーン、地域ゾーン、共有ゾーン、管理ゾーン、給食室・プールゾーンの5つの機能をゾーニング
- ・ 単独利用から使われ方に応じて各ゾーンが有機的につながる可変性のある平面計画
- ・ 共有ゾーンを中心に東側を児童ゾーン、西側を地域ゾーンとして、双方が施設を共有できるしくみ
- ・ 各ゾーンは単独運用から連携運用まで、各段階ごとにセキュリティ区画が形成できるしくみ
- ・ 各ゾーンには、学び、活動、交流を促す特徴のある空間を整備

児童ゾーン・管理ゾーン：「コミュニティモール」、地域ゾーン：「地域活動室」「郷土資料室」
共有ゾーン：「内の広場」「メディアセンター」、給食室・プールゾーン：「防災機能」



■各ゾーンの計画

○児童ゾーン（普通教室・特別支援教室・コミュニティモール）

- ・ グラウンドや地域ゾーンから少し距離を置いた静かな落ち着いた敷地東側に展開
- ・ 2階建て、東側を開いたクラスター形式とすることで、全教室の自然採光、自然通風を確保
- ・ 各クラスターは、3クラス+少人数学習室+ワークスペースを持つ形式として、学年のまとまりや学びの拡張性を確保
- ・ クラスター内は、他学年の通過動線を無くすことで、落ち着いた静かな学習環境を確保
- ・ 学内中央南北軸に各クラスターをつなぎ、異学年交流を促す「コミュニティモール」を形成
- ・ 特別支援教室、保健室、指導室、相談室をまとめて「心のゾーン」を形成
- ・ 特別支援教室は、管理ゾーン近傍で、コミュニティモール軸線上に配置して、疎外しない配慮

○地域ゾーン（地域活動室・郷土資料コーナー・放課後児童クラブ室）

- ・ 屋内運動場、駐車場、外の広場、屋根のある広場と連携しやすい校舎西側に配置
- ・ 地域活動室、放課後児童クラブ室は単独運用もできる配慮
- ・ 共有ゾーンに面して配置することで、機能の拡張、施設の補完、お互いの交流を促す

○共有ゾーン（昇降口・内の広場・特別教室・メディアセンター）

- ・ 共有ゾーンは、児童ゾーン、地域ゾーンの間に配置して双方が使いやすい配慮
- ・ 学内の核となる「内の広場（多目的ホール・ランチルーム）」を中心に、各ゾーンや特別教室が廻りを囲むように配置して活動の拡張性や新しい活動を誘発させる
- ・ 地域利用頻度が高いと想定される内の広場、家庭科室、多目的室1（生活科室）などを1階に配置
- ・ 各所に情報スペースやギャラリースペースを設けて、情報の収受や自発的な学び、地域の人との交流を促す仕掛けをつくる
- ・ 調べ学習や問題解決型の学びを促すため、図書室、コンピューター室、多目的室2、ギャラリースペースなどを集約したメディアセンターを整備
- ・ メディアセンターをはじめとする各特別教室は、極力オープンな設えとして、学びの拡張性や活動の様子を共用部に伝える

○管理ゾーン（校長室・職員室・保健室・相談室）

- ・ 校舎やグラウンドへの見通しがよく、昇降口近く、管理しやすい校舎中央1階に配置
- ・ 校長室、職員室、保健室をひとつなぎにする他、相談室、放送室、介助員室、職員休憩室などを集約配置して学校運営に配慮
- ・ 地域ゾーンと管理ゾーンを隣接、連携させることで「コミュニティ・スクール」としての運営を促す

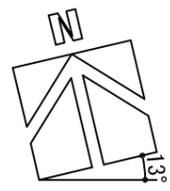
○給食室・プールゾーン（給食室、プール、備蓄倉庫）

- ・ 安全性（延焼リスクなど）の高い単独棟配置とし、屋内の渡り廊下でつなぎ衛生面に配慮
- ・ 単独棟とすることで4面採光を可能とし、明るい衛生的な調理室を実現
- ・ 2階にプールを設置することでプライバシー確保、砂塵防止、悪戯防止、騒音防止に配慮
- ・ 地域開放や管理外プール活動時に単独利用しやすいように、プールへ至る直通屋外階段を設置
- ・ 給食室（炊き出し）と備蓄倉庫（食材）、プール（水の確保と濾過）を組み合わせることで災害時のバックアップ機能を高める

■その他の配慮事項

- ・ 順次建て替えの移行期間中の機能維持、安全確保、負担軽減できる平面計画
- ・ 接地性、安全性、メンテナンス性の高い、2階建て校舎
- ・ 普通教室、特別支援教室の南向き配置、季節風を遮る囲み型の配置と西向き昇降口の回避
- ・ 屋根のある広場により既存屋内運動場と改築校舎を一体的につなぐ
- ・ あらゆる集団単位への対応 学年：屋内運動場、2学年：内の広場、1学年：クラスター内WS
- ・ 誰にでも優しく、等しく使えるユニバーサルデザインの確立
- ・ 文部科学省施設整備指針に基づく整備と川崎地域の特徴を加えた学校づくり

- 1) 多機能で変化に対応し得る弾力的な環境整備→多機能な学習形態、情報化への対応
- 2) 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保→良好な環境・ゆとりと潤い・環境負荷低減
- 3) 地域の生涯学習やまちづくりの核としての整備→最も身近な公共施設として、避難所として整備



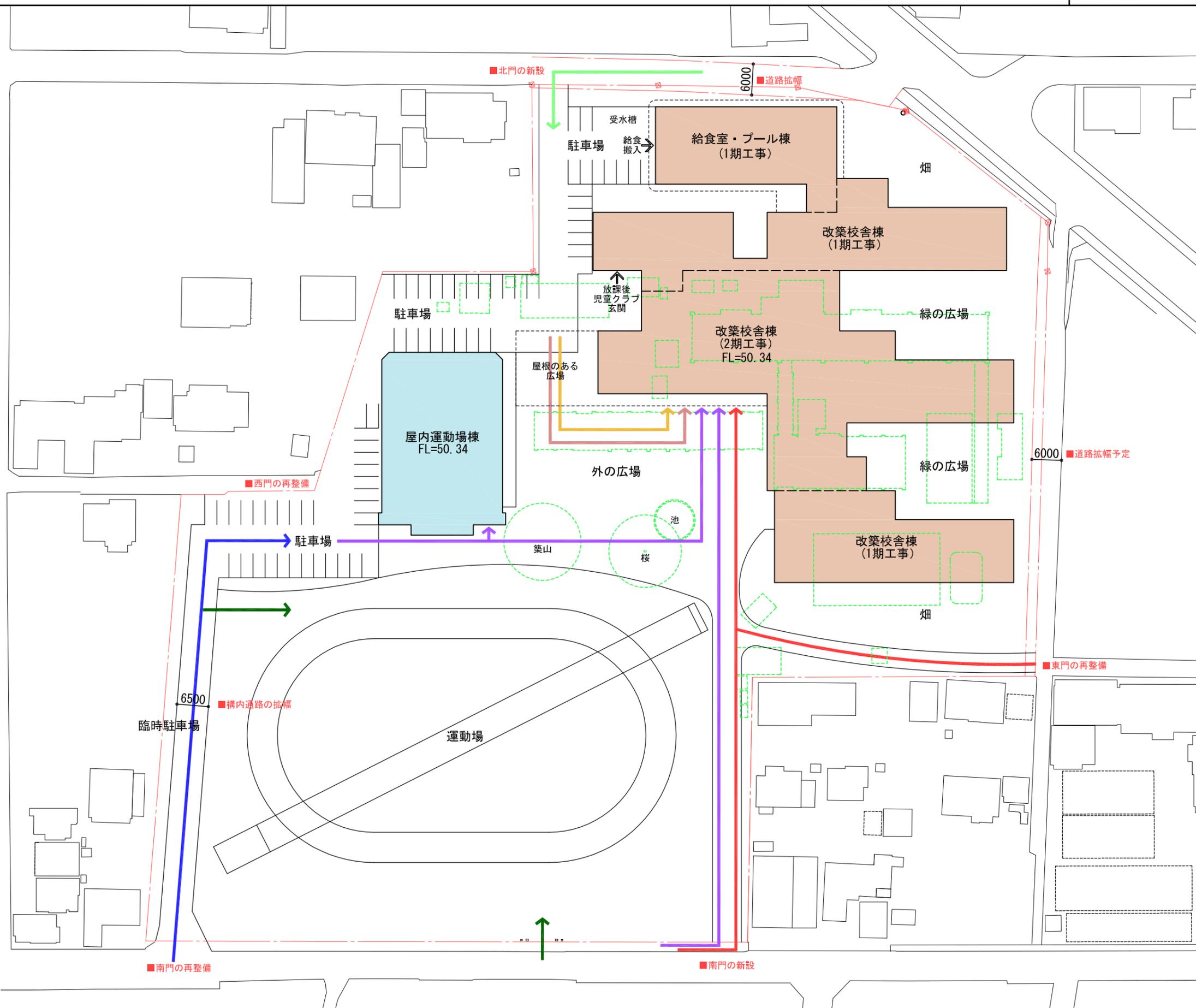
A3 S: 1/800

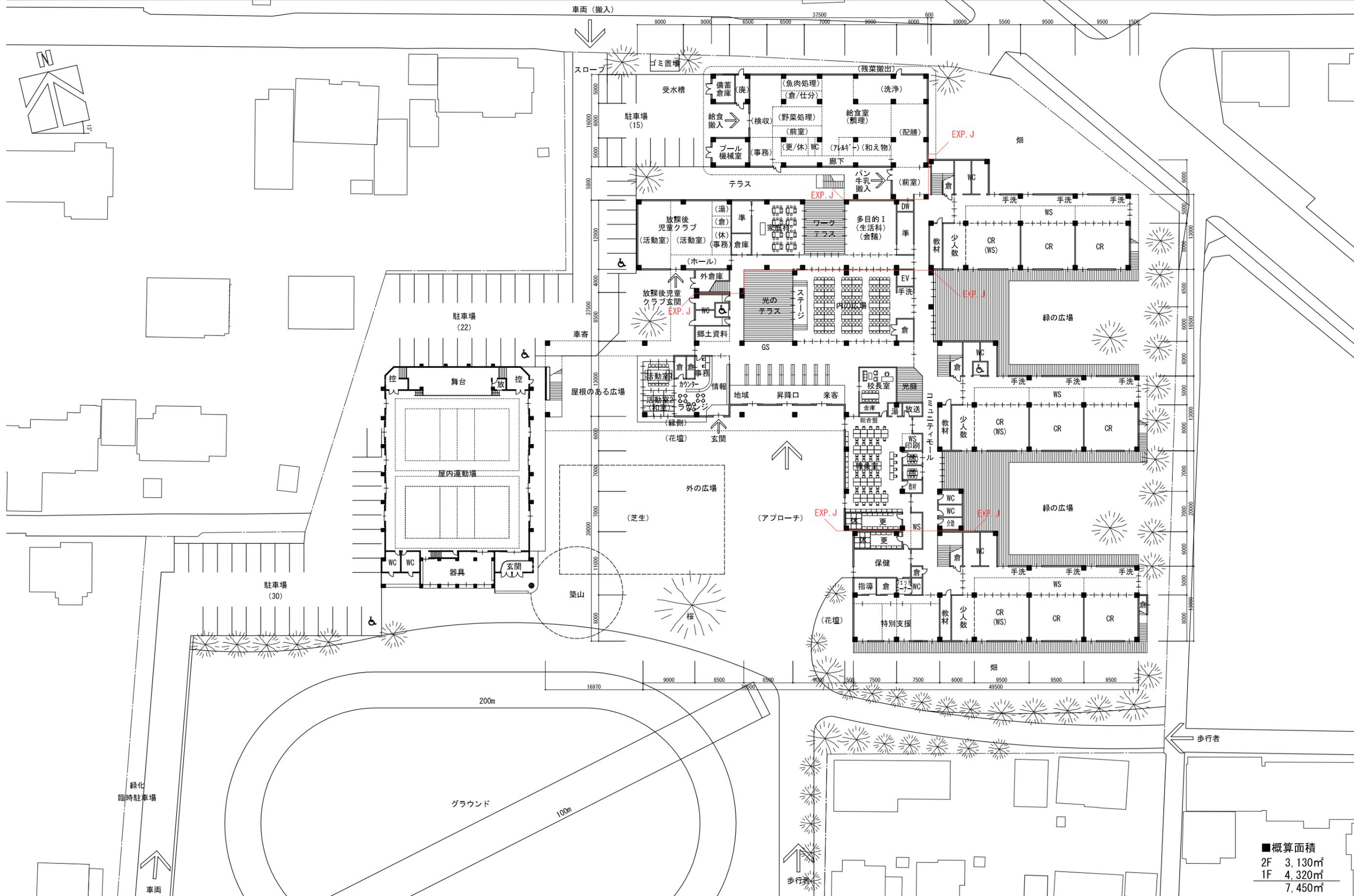
■敷地概要

敷地位置 亀山市能褒野町77-22
 敷地面積 約23,642㎡
 用途地域 第一種住居地域
 建蔽率・容積率 60%・200%
 防火・準防火地域 指定なし(22条地域)

- 図面凡例
- 既存屋内運動場棟
 - 計画建物
 - 既存校舎の位置を示す

- 動線凡例
- 歩行(児童)
 - 歩行(職員)
 - 歩行(地域・来客)
 - 歩行(搬入業者)
 - 車両(来客・職員)
 - 車両(給食搬入等)
 - 車両(運動場への乗り入れ)





■概算面積

2F	3,130㎡
1F	4,320㎡
合計	7,450㎡

